

令和3年度 生光学園中学校入学式 校長式辞 <49期生>

本日、令和3年度生光学園中学校の入学式を挙行することができますことは、私共にとって大きな慶びであり衷心よりお礼申し上げます。また、新入生の保護者の皆様、ご家族の皆様方には、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。申すまでもなく、教育は家庭と学校が一体となっはじめてその成果が表れるものであります。私どもは建学の精神に則り、お子様の成長を願い様々な教育活動を展開してまいりますので、保護者の皆様方にはご理解と、暖かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて、入学許可の呼名で元気な返事をして下さった22名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今日からいよいよ新しい学校生活が始まりますが、今は緊張と不安と期待が交錯した複雑な気持ちだと思います。しかし先輩たち、また私たち教職員一同、しっかりと準備を整え皆さんの入学を心待ちにしておりましたので、どうぞ安心して、学園生活に慣れ、一日もはやく“生光ファミリー”の一員になって欲しいと願っています。

今日は皆さんに、入学にあたり心にとどめておいて欲しいことをひとつだけ、お話しします。それは“生光”という名前の由来についてです。皆さんの名前はご両親或いはおじいさんやおばあさんたちが、特別な思いや期待を込めてつけてくださったのではないのでしょうか。“生光”という校名も同様です。“生光”という意味をしっかりと理解することは、これから始まる学校生活の指針となり、生光学園で学ぶ意義をより強く自覚することができると思います。

70年余り前、学園の創立者 美馬昇前学園長は、戦争のために両眼失明の状態に立ちいたりしました。しかし、廢人同様の身ながら、世をうらまず、残された生命を社会の為に役立てたいと決心いたしました。そして自己に関する一切を捨て自分が生きることの究極を、他を生かすことに見出した時から、少しずつ奇跡が、起こりはじめました。多くの眼科医から見放された眼に視力が戻りはじめたのです。“光が生まれる” “生光”の命名は、かくなされました。この“生光”という言葉に込められた創立者の願いを、思いを 3年間あるいは6年間かけて、しっかりと体得して行って欲しいと願います。

学園ができて74年の歳月が過ぎました。そして中学校ができて49年、美馬昇先生のこの精神は、先輩たちから皆さん方へと、脈々と、そして確かに、受け継がれていきますことを期待しております。どうぞこの自然豊かなすばらしい環境の中で、新しく始まる学校生活に感謝と希望を持って私たちと共に精進してまいりましょう。

皆さんの健康と活躍を心より祈念して 式辞 といたします。

令和3年4月9日



生光学園中学校校長 佐近 隆義